

特集1: CEDAWフォローアップ
特集2: 政治分野における男女共同参画推進法



トリニダード・ガルシア脚本『シモーヌの時代』の日本版製作について

リボアル菜巳乃

はじめまして、リボアル菜巳乃と申します。新会員になり、今回コラム執筆という光栄な機会を頂きました。苗字がカタカナなのは、夫がフランス人だからです。大阪出身で中国に2年間、ノルウェーとフランスに4年間家族で住み、3年前より京都在住です。NPO職員を経て、現在は講師やアテンド通訳、詩の翻訳者です。自他共に認めるフェミニストです。よろしくお願ひ致します。

2017年夏、『シモーヌが見た時代』をバリのコメディ・バステューユ劇場で観劇し、脚本家トリニダード・ガルシアと出会い、現在日本版製作に取り組んでいます。

シモーヌ役と他3名の女優が、娘、孫、ひ孫を、1950年代、70年代、90年代、2010年代と演じます。シモーヌは、赤松良子名誉会長と同時代に活躍されたシモーヌ・ヴェイユ(政治家、1927~2017)を表

します。フランス社会での女性に関する新法律制定による女性の権利獲得の歴史と意識の変化を表現する劇です。1950年代、公園で5人目を妊娠させられたと嘆くマルセルに人工妊娠中絶を助言するフランス。青ざめ衝撃を受けるジョバンナ。1970年代には仕事を得て看護師となったジョバンナがビルを配り、皆で自由を喜び……と続きます。

来年4月のトリニダードの来日に向け、実行委員会を立ち上げます。ご関心を持って頂けたらtrinidad@namino.rivoal.netまでお知らせ下さい。フランス版の大人の男女が笑えるユーモアたっぷりの喜劇を、日本版では少女少年が日本の女性の権利獲得の歴史や性について知り、エンパワメントできる劇を目指します。

(りほある なみの・会員、通訳、翻訳家)

特集1: 第9次日本レポートに向けた準備段階事項の検討
特集2: 第4回世界女性会議(北京会場)25周年(北京+25)
特集3: 新型コロナウイルス感染症とジェンダー



ジェンダー平等社会にむけてユーモアで表現する日仏ミモザ演劇プロジェクト

リボアル菜巳乃

わたしたちは、現在「ミモザ・日仏演劇文化交流による女性の人権架け橋プロジェクト」で、女性の人権の歴史をユーモアのある演劇で表現する制作プロジェクトを進めています。

今年3月、COVID-19でフランスがロックダウンを決め、共同制作者である脚本家・舞台俳優のトリニダード・ガルシアも、自宅待機を強いられました。難しい状況の中、赤松良子ジェンダー平等基金採択という一報を受け、2人で喜びました。それに加えて、京都市緊急文化芸術奨励金の対象事業としても採択されました。

8月28日には、国立女性教育会館フォーラムにおいて、フランス大使館の後援を頂いた、ワークショップを開催いたしました。ワークショップのための脚本の制作、実行委員の打ち合わせ、翻訳作業、出演者とのリハーサル、脚本の調整、朗読演劇の本番、

全てオンラインで行いました。

いま残っている課題は、トリニダードの作品の特徴である言葉を使ったユーモアを、日本の文脈でもおもしろいと伝わるように翻訳し、「笑える」脚本とすることです。彼女はユーモアとは「飲みにくい薬を飲み込むための水のようなもの」と言い、わたしもそう思います。来春の4月10日女性参政権記念日に発表予定の新しい脚本は、彼女のユーモアをしっかりと伝えられる形で翻訳したいです。

2022年春の劇場上演のために、たくさんの人たちがかわること自体が、ジェンダー平等社会の実現にむけての実践なのだ日々実感しております。

最後に、赤松良子名誉会長、国際女性の地位協会の皆様へお礼申し上げます。

(りほある なみの・会員、演劇制作者、
通訳、翻訳家)